



たてやま おらがんまっち

2018.3 No.38

南総祭礼研究会



地域の自慢

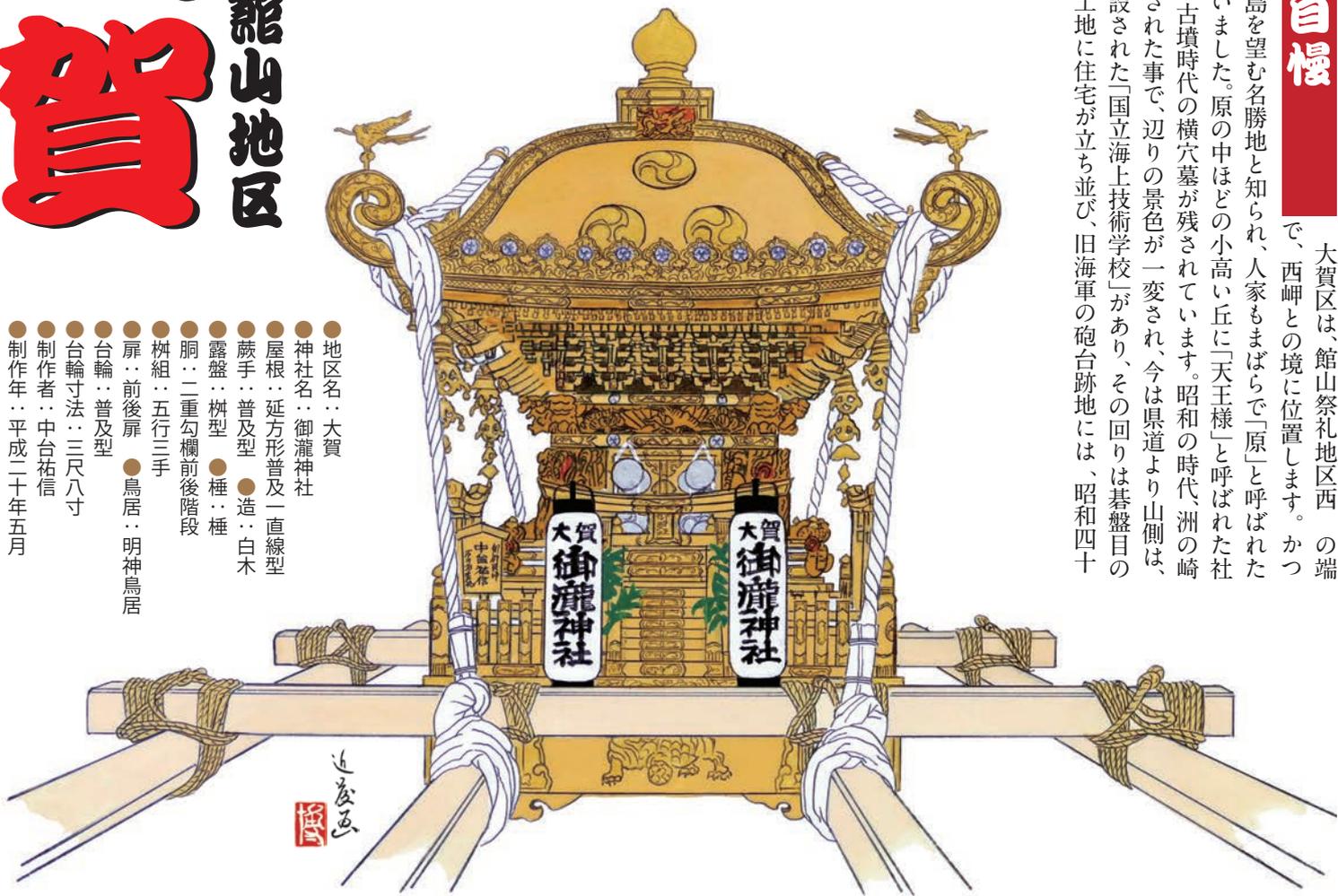
大賀区は、館山祭祀地区西の端で、西岬との境に位置します。かつては、沖ノ島、鷹の島を望む名勝地と知られ、人家もまばらで「原」と呼ばれた農耕地が広がっていました。原の中ほどの小高い丘に「天王様」と呼ばれた社があり、丘の下には古墳時代の横穴墓が残されています。昭和の時代、洲の崎海軍航空隊が開設された事で、辺りの景色が一変され、今は県道より山側は、昭和三十七年に開設された「国立海上技術学校」があり、その回りは碁盤目のように整備された土地に住宅が立ち並び、旧海軍の砲台跡地には、昭和四十年に深津牧師の尽力で開設された「かにた婦人の村」があります。

海側には、古くから崇拜され続けている真言宗智山派の寺院「積蔵院」があり、江戸時代後期には寺子屋が開かれていました。現在では浜近くに、ホテルや大学の研修施設が立ち並んでいます。江戸時代初期に創建された地区の鎮守様の「御瀧神社」を柱として、三百八十五世帯ほどが暮らすのどかな海辺の地区です。

大賀

館山市館山地区

- 地区名・大賀
- 神社名・御瀧神社
- 屋根・延方形普及一直線型
- 葺手・普及型 ● 造・白木
- 露盤・樹型 ● 柱・柱
- 胴・二重勾欄前後階段
- 枘組・五行三手
- 扉・前後扉 ● 鳥居・明神鳥居
- 台輪・普及型
- 台輪寸法・三尺八寸
- 制作者・中台祐信
- 制作年・平成二十年五月



自慢の神輿

大賀には昭和三十一年に地元大賀の「孫平」という大工によつて作られた「中神輿(ちゆうでん)」がありましたが、地区の方々の篤い思いにより、平成二十年に浦安市行徳の神

輿制作会社「中台」の制作により現在の白木の大神輿が新調されました。その屋根には、三つの左三つ巴が光り、重厚な台輪に腰組作り、白木の神々しさと美しさには目を見張るものがあります。御瀧神社の祭神である水波能売命(みずのはめののみこと)に因んで、見事な龍の彫刻が数多く施されているのも特徴のひとつです。また、ふんだんに施された飾り金具の一つ一つにも神輿職人のこだわりが光り、大賀区の人々の熱意と情熱が作り上げた自慢の神輿です。



たくさんの龍が彫られている神輿彫刻



飾り金具にも神輿職人「中台」の技が光る



中神輿